

創刊の辞

長戸 公*

Isao NAGATO

サゴヤシ・サゴ文化研究会の設立以来、研究会誌の発行は関係者一同の強い願いでした。ここにその創刊号の発刊をみたことを衷心嬉しく思います。この会誌が、会員相互の情報交換、研究成果発表の場として大いに利用され、さらに研究会の活動の拡大発展に寄与してくれることを強く期待いたします。

ところで、いまなぜサゴヤシなのか、またサゴ文化なのか、会誌創刊号が出るに当たり、この点をもう一度確かめておきたいと思います。第1には、低利用・未利用植物資源の開発利用の道を拓げることの重要性です。発展途上国の人口増加率が食料生産の増加割合を凌駕している現実をみると、長期的にみて、世界の食料需給の逼迫は避けられないと考えます。人によっては将来の食料供給の可能性を楽観的に見ているようですが、私はそれに同調できません。楽観視できるにはあまりにも不確実な要因が多過ぎるからです。いま私どもがなすべきことは、将来のどのような事態にも対応し得るように、可能な限り食料増産の道を切り拓いておくことだと思えます。サゴヤシは、今はまだ低利用植物資源のひとつですが、その潜在的な生産能力を高める努力をすることは、現在の私どもの果たすべき将来への義務であり、その成果は、子孫への貴重な遺産になると私は考えます。

第2は、広大に拓がる熱帯低湿地域の経済開発の問題です。経済的な有利性をもつ植物資源がきわめて限られている熱帯低湿地域で、サゴヤシは高い適応性をもっており、現に野生のサゴヤシの一部は、そこに住む人達の食料として、また他地域への輸出財として利用されています。しかし、今後サゴヤシが、そのような地域の経済開発に効果的、持続的に利用できるためには、解決しな

くてはならない問題が山積しています。開発のしかたによっては、環境保全、社会生活の安定を脅かす事態も招きかねません。含まれる問題は、複雑多岐にわたっており、しかも一朝一夕には解決できないことばかりのようです。問題の分析と解決方法の探究を今から始めておく必要がある所以です。

第3は、サゴヤシの生育する地域の社会的、経済的、制度的な条件の整備にかかわることです。サゴヤシ開発の重要性やサゴヤシ地帯の効果的な経済開発の必要性はわかって、それが実現されるには、地域の産業・経済・社会・文化・政治などの問題と深くかかわらざるを得ません。しかも生産地域は、経済的にまだ力の弱い発展途上国です。農林水産物を含み国外の食料資源に大きく依存するわが国にとって、発展途上国への協力に力をかすことは、食料資源輸入国として当然踏むべき道であると考えます。サゴヤシの潜在的な生産能力の開発と利用拡大に対する協力は、わが国が発展途上国の経済開発に寄与できる恰好な場を提供してくれるものと私は確信しています。

農林業分野では研究対象、手法がますます細分化し、専門的になっていますが、この傾向はサゴヤシについても同様と見受けられます。しかし個々の成果がサゴヤシ産業として経済的發展に結びつくには、関係者の連携協力が必須の要件です。研究会が各分野の人達の繋りを強めるうえに一助の働きをしていただけることを期待いたします。サゴヤシ研究と開発の将来に大きな夢と期待をかねてより抱いている者のひとりとして、研究会の発展と、そしてこの会誌を通しての活発な活動を心から祈ります。

* サゴヤシ・サゴ文化研究会会長